

【ショートレター】

# 高校生の保護者が求める高大で身につけて欲しい能力と 三重大学への進学推奨度との関係†

宮下 伊吉\*

三重大学地域人材教育開発機構\*

本稿では、2019年1月に実施した高大社接続の視点による三重県内の高等学校の保護者向け意識調査の結果をもとに、2021年度大学入学者選抜の対象となる高校生の保護者が、子供にどのような能力を高校・大学で身につけて欲しいと考えているかについて、三重大学への進学の推奨度や、第一志望の大学進学先地域との関係から提示した。その結果、進学推奨度別に、保護者が考える高校・大学で求める能力について差がみられることを確認した。

キーワード：高大接続、学力の3要素、社会人基礎力、4つの力

## 1. はじめに

本稿の目的は、2021年度大学入学者選抜の対象となる高校生の保護者が、これからの時代に求められる資質・能力として子供にどのような能力を高校・大学で身につけて欲しいと考えているかについて、三重大学への進学の推奨度や、第一志望の大学進学先の地域との関係から明らかにすることで、三重大学の教育目標や高校との連携や接続のあり方や、今後のエンロールメント・マネジメント活動<sup>1)</sup>に貢献できる情報の提供をめざすものである。

## 2. 先行研究

高校生の保護者の意識については、経済産業省の社会人基礎力に関する全国の高校2年生の保護者を対象にした意識調査があり、その調査で指標とされた社会人基礎力のうち、将来必要とされるが現在は不足している高校生の能力が「主体性」「実行力」「発信力」であることが明らかになっている。また、大学生の保護者の意識については、民間研究機関の全国の大学生(1~4年生)の保護者を対象にした意識調査や、個別大学による大学に入学した全国の学生とその保護者が志望校選択に重視した項目に関する調査研究(並川ほか 2014)がある。しかし、本稿のように、大学が設置されている地域に特化して、高校生の

保護者に大学への進学推奨度や第1志望の大学進学先の地域を確認した調査研究は、先行研究では見当たらない。

そこで、本研究では、進学推奨度と第1志望の大学進学先の地域、求められる能力との関連について、先行研究の結果との比較も行いながら、三重大学の学生募集戦略や入試・広報活動等の参考となりうる考察を行う。

## 3. 調査概要

### 3.1. 時期・方法・調査対象・回収数・項目・分析対象

調査時期 2018年10月の予備調査と2019年1月の本調査の結果を集計

表2 第1志望の大学進学先の地域と三重大学への進学推奨度のクロス集計表

4 つよく薦める (A 推奨度強) 3 まあ薦める (B 推奨度中) 2 どちらともいえない (C 推奨度弱) 1 薦めない (D 推奨度無)	第1志望の大学進学先の地域			合計	
	三重県内	三重県外	未定+不明		
4	度数	283a	150b	222b	655
	三重大学への進学希望、どの程度お薦めしますか の %	43.2%	22.9%	33.9%	100.0%
	第1志望の大学進学先の地域の %	72.0%	25.4%	26.5%	35.9%
	度数	93a	269b	380b	742
3	三重大学への進学希望、どの程度お薦めしますか の %	12.5%	36.3%	51.2%	100.0%
	第1志望の大学進学先の地域の %	23.7%	45.5%	45.3%	40.7%
	度数	15a	135b	218b	368
	三重大学への進学希望、どの程度お薦めしますか の %	4.1%	36.7%	59.2%	100.0%
2	第1志望の大学進学先の地域の %	3.8%	22.8%	26.0%	20.2%
	度数	2a	37b	19a	58
	三重大学への進学希望、どの程度お薦めしますか の %	3.4%	63.8%	32.8%	100.0%
	第1志望の大学進学先の地域の %	0.5%	6.3%	2.3%	3.2%
合計	度数	393	591	839	1823
	三重大学への進学希望、どの程度お薦めしますか の %	21.6%	32.4%	46.0%	100.0%
	第1志望の大学進学先の地域の %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表1 第1志望の大学進学先の地域別にみた三重大学への進学推奨度の値

第1志望の大学進学先の地域	平均値	度数	標準偏差	総数の%	尖度	歪度
三重県内	3.67	393	0.573	21.6%	2.779	-1.724
三重県外	2.90	591	0.851	32.4%	-0.432	-0.421
未定+不明	2.96	839	0.784	46.0%	-0.700	-0.212
合計	3.09	1823	0.825	100.0%	-0.524	-0.517

調査方法 高校経由による質問紙調査（無記名式）  
 調査対象 本学に進学実績のある三重県内の公立高等学校 8 校の高校 1 年生の保護者  
 回収数 回収数 2,102 人（配布数 2,402 人，回収数 2,102 人，回収率 87.5%）  
 調査項目 6 項目（属性項目含む，項目の掲載は省略）  
 分析対象 回収数 2,102 人のうち，属性項目で子供の卒業後の希望進路を「大学進学」と回答した保護者の有効回答 1,823 件

「大学で特に力を入れてほしいと思っていること」  
 三つとも②推奨度のそれぞれの変数の分布を比較する。

### 3.2. 分析方法

1,823 件に対する分析方法は，次の通りである。

- ①第 1 志望の大学進学先の地域では三つの変数を用いて，それぞれの変数の分布をパーセンテージで示す。  
 三つの変数は，「三重県内」「三重県外」「未定+不明」。
- ②三重大学への進学推奨度（以下，推奨度とする）は，4 件法（4 つよく薦める，3 まあ薦める，2 どちらともいえない，1 薦めない）に基づき，次の 4 カテゴリーを変数とし，それぞれの変数の分布をパーセンテージで示す。  
 A 推奨度が強い（4 つよく薦めると回答した層）  
 B 推奨度が中くらい（3 まあ薦めると回答した層）  
 C 推奨度が弱い（2 どちらともいえない層）  
 D 推奨度が無し（1 薦めないと回答した層）
- ③①②のクロス集計を行い，変数の関連を明らかにする。
- ④保護者が求める能力については，全国規模の先行研究と比較が可能な次の三つの能力意識調査を取り上げる。  
 「将来，社会で働くにあたり特に必要とされる能力」  
 「現在持っている能力で高いと思われる能力」

### 4. 結果と考察

#### 4.1. 第 1 志望の大学進学先の地域と進学推奨度の関連

第 1 志望の大学進学先の地域の進学推奨度では，「三重県内」を希望する保護者 21.6%の推奨度の平均値が 3.67 と最も高い（表 1）。その要因は，第 1 希望の大学進学先地域が「三重県内」の進学推奨度の内訳に表れている（表 2）。「三重県内」への大学進学を第 1 希望とする保護者の 72.0%が三重大学への進学をつよく薦めており，第 1 志望の大学進学先の地域が「三重県外」及び「未定+不明」の保護者とは，変数 A（推奨度強）での差が大きい。

分析対象の推奨度別の分布では，変数 A（推奨度強）は 35.9%で，変数 B（推奨度中）の 40.7%に次いで高い分布を示している。しかし，その 35.9%の内訳をみると，「三重県内」の大学進学を第 1 希望とする度数は 283 件であり，分析対象 1,823 件の 15.5%に留まる。三重大学への進学をつよく薦めているにも関わらず，第 1 志望の大学進学先を「三重県外」と回答が 150 件（8.2%），「未定+不明」と回答が 222 件（12.2%）となっている。

「三重県外」と「未定+不明」の保護者の推奨度別の分布をみると，「三重県外」では変数 D（推奨度無）が 63.8%，「未定+不明」では変数 C（推奨度弱）が 59.2%と最も高い分布を示している。「三重県内」では変数 A（推奨度強）が 72.0%であることから，進学推奨度によって，保護者の意識に違いがあると考えられる。

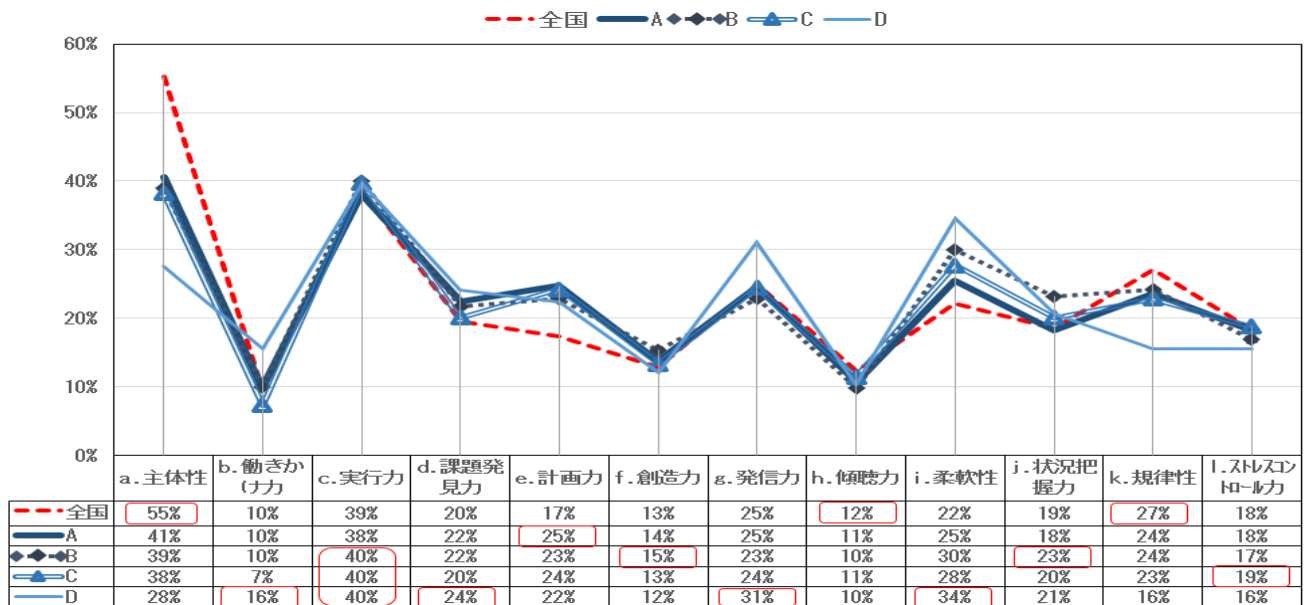


図 1 将来，社会で働くにあたり特に必要とされる能力 上記は各項目の選択数を推奨度の変数 A～D の対象数で除した比率

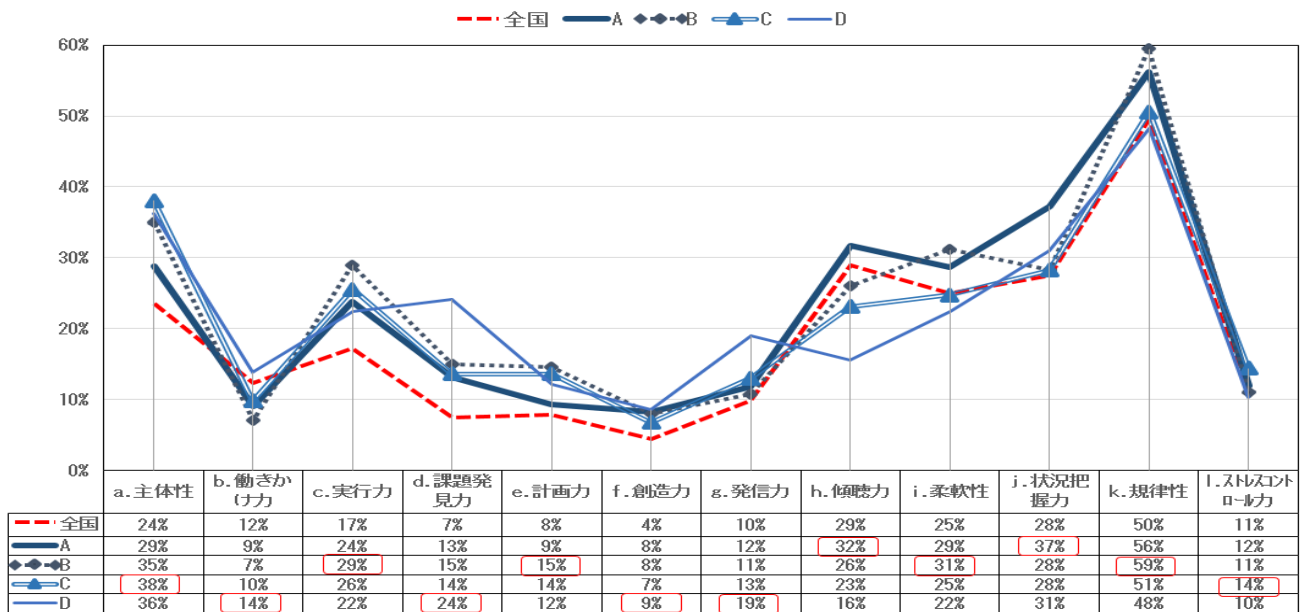


図2 現在持っている能力で高いと思われる能力 上記は各項目の選択数を推奨度の変数A~Dの対象数で除した比率

#### 4.2. 保護者が求める能力と進学推奨度の関連

##### 4.2.1. 分析上の仮説とその検証方法

第1志望の大学進学先の地域と進学推奨度の関連から、進学推奨度による保護者の意識の違いがみられるのではないかという分析上の仮説を立て、保護者が求める能力と進学推奨度との関連から検証する。

本研究の分析対象の特徴を明らかにするため、今回の調査結果のうち、全国規模の先行研究と比較が可能な三つの能力意識調査項目に絞った。そのうち二つは、経済産業省の社会人基礎力に関する全国の高校2年生の保護者を対象にした意識調査である。横軸を社会人基礎力の12項目とし、該当する項目を複数選択して、項目毎の選択数を対象数(n=1,722)で除した比率を縦軸のパーセンテージで表している。もう一つは民間研究機関が全国の大学生(1~4年生)の保護者を対象にした意識調査である。横軸を大学で力を入れたい分野(勉強全般、英語・海外、対人交流、課外活動、進路・就職など)の21項目とし、該当する項目を複数選択して、項目毎の選択数を対象数(n=3,000)で除した比率を縦軸のパーセンテージで表している。本研究では、横軸を先行研究と同一とし、縦軸でその能力等の選択項目の選択数を推奨度の変数(A~D)の対象数で除した比率で示し、対象者数が異なる先行研究の結果(「全国」で表記)と比較できるようにした。

##### 4.2.2. 将来、社会で働くにあたり必要とされる能力

将来、社会で働くにあたり特に必要とされる能力について、先行研究の結果の「全国」と、本研究の推奨度の変数(A~D)との相違がいくつかの能力においてみられた

(図1)。特にD(推奨度無)のみ、「働きかけ力」「発信力」「柔軟性」が高く、「主体性」「規律性」が低かった。

##### 4.2.3. 現在持っている能力で高いと思われる能力

現在持っている能力で高いと思われる能力についても、先行研究の結果の「全国」と、本研究の推奨度の変数(A~D)との相違がいくつかの能力においてみられた(図2)。特にD(推奨度無)のみ「課題発見力」が高く、「傾聴力」が低かった。

##### 4.2.4. 大学で特に力を入れてほしいと思っていること

大学で特に力を入れてほしいと思っていることについて、先行研究の結果の「全国」と、本研究の推奨度の変数(A~D)との相違を調べたところ、推奨度の変数別に差が大きい選択項目がみられた(図3)。変数D(推奨度無)では、「将来の生き方・進路」「資格取得」「子供自身が打ち込みたいことみつける」が最下位だが、変数A(推奨度強)では最上位であった。「全国」との比較では、「留学などの海外体験」「英語の勉強」で変数D(推奨度無)が最上位で、他の変数も「全国」も大きく上回るが、「部活・クラブ・サークル」では「全国」が最上位であった。

##### 4.2.5. 検証結果

以上、保護者が求める能力と進学推奨度との関連から進学推奨度による保護者の意識の違いを確認した結果、「全国」との差や、D(推奨度無)が他の推奨度の変数、とりわけA(推奨度強)との意識の違いが大きい能力等を明らかにすることができた。

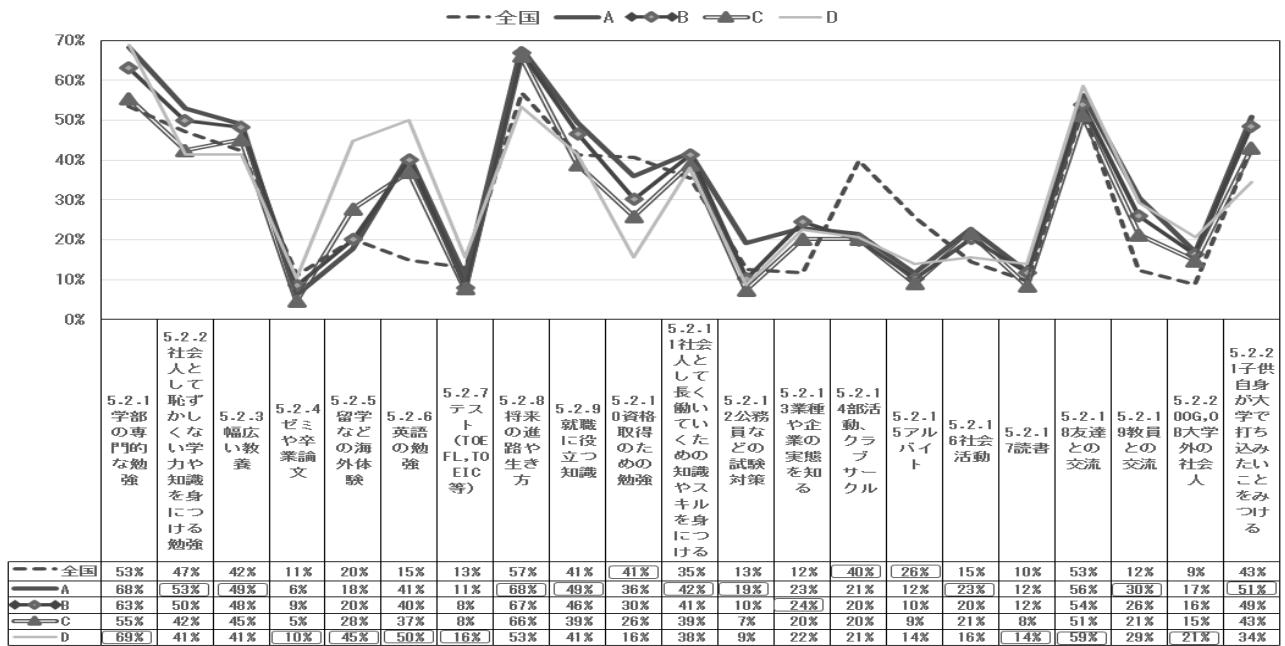


図3 大学で特に力を入れてほしいと思っていること 上記は各項目の選択数を推奨度の変数A~Dの対象数で除した比率

5. まとめ

三重県内の高校生の保護者の第1志望の大学進学先の地域が三重県内の場合、三重大学への進学推奨度は3.67と最も高いが、保護者の推奨度別では、「三重県内」でA(推奨度強)が72.0%、「三重県外」でD(推奨度無)が63.8%、「未定+不明」でC(推奨度弱)が59.2%を示した。そこで、推奨度別に保護者の意識に違いがあるのではないかと仮説を立て、保護者が求める能力と進学推奨度との関連から検証し、推奨度による保護者の意識の違いがみられる能力等を確認した。その結果、D(推奨度無)で他の推奨度の変数とは異なる傾向がみられた。

D(推奨度無)の保護者は県外志向が強く、大学では留学と英語を重視し、主体性・規律性よりも、将来は発信力・柔軟性を身につけて欲しいと考える傾向がある。A(推奨度強)の保護者は県内志向で、大学では「生き方」「進路」「資格」を重視し、将来は主体性・計画力を身につけて欲しいと考える傾向があり、Dとは異なる意識を持つ。

今回の結果を参考に、高校との連携や接続のあり方をはじめ、エンrollment・マネジメントにおける大学選択を支援する活動に貢献できる情報の提供をめざしたい。

注

1) 大学選択から大学入学・在学中・卒業後までの情報を活用し、学生の成長を一貫して支援する活動を指す。

謝辞

本研究にあたり、調査にご協力いただいた高等学校関係者及び保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

係者及び保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

参考文献

ベネッセ教育総合研究所(2012)『大学生の保護者に関する調査』(http://berd.benesse.jp/koutou/research/)(2019年10月29日)。  
 一般社団法人全国高等学校PTA連合会・(株)リクルートマーケティングパートナーズ(2017)『第8回「高校生と保護者の意識調査」2017年報告書』(http://souken.shingakunet.com/research/2017\_hogosya2.pdf)(2019年10月29日)。  
 並川努・佐藤喜一・濱口哲(2014)「入試広報に関する受験生・保護者の動向の検討」『大学入試センター発行、大学入試研究ジャーナル』24:149-154。

† Ikichi Miyashita\*: Relation between the ability to wish for learning at the high school and the university judged from high school student's guardian investigation and the degree which Mie University is recommended

\* Organization for the Development of Higher Education and Regional Human Resources, Mie University 1577 Kurimamachiyachou Tsushi, Mie, 514-8507 Japan